資料4 アンケート調査概要結果

歴史文化基本構想に関するアンケート調査概要結果

①住民意向の把握方法

市の文化財に対する市民の実感や問題意識、将来の方向に対する意向等を吸収するため、市民アンケート調査を実施した。

調査の実施概要は以下のとおりである。

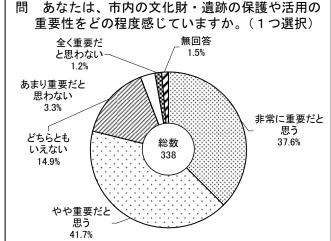
- 調査の実施:平成24年5月(6月20日投函締切)
- ・調査対象者:16歳以上の市民1,000人を住民基本台帳より無作為抽出
- ・調査方法:郵送による配布、郵送(料金受取人払)による回収
- 有効回収率: 33.8%

設問項目の構成は以下のとおりとした。

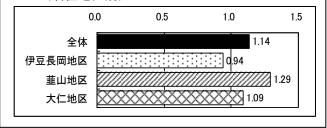
- ○回答者の属性
 - ・性別 ・年齢 ・職業 ・居住地区 ・居住歴
- ○伊豆の国市の文化財について
 - ・伊豆の国市の歴史や自分達の祖先の暮らしの興味
 - ・文化財・遺跡の由来やその保護・活用などについて全般的な関心
 - ・市内の文化財・遺跡の保護や活用の重要性
 - ・伊豆の国市の文化財・遺跡の中で、知っているもの、行ったことがあるもの
 - ・文化財・遺跡の中で、特に関心があり、その保護や活用が重要だと思うもの
- ○伊豆の国市のおもな文化財・遺跡について
 - ・文化財・遺跡を知ったきっかけ
 - ・お客様に文化財・遺跡に案内するとしたら、どの程度説明ができるか
 - ・文化財・遺跡のイメージ
 - ・文化財・遺跡の保護・保存状況の感想
 - ・文化財・遺跡の今後の保護・保存や活用についての考え
 - ・文化財・遺跡を公開・活用していく場合に、必要な整備
- ○伊豆の国市の文化財・遺跡全般における今後の整備等について
 - ・文化財・遺跡を整備・公開することついての考え
 - ・文化財・遺跡を紹介し学習施設を整備、充実させようとする場合、希望するサービス
 - ・文化財に関する活動のなかで、今後、参加してもいいと思うもの
- ○文化財の将来のあり方に対する自由な意見
- ※ 有効回収率 33.8%は、行政が実施するまちづくりに関するアンケートの回収率としてはやや低いが、「歴史文化」という分野が特定された内容であるため、比較的歴史文化に関心の高い層の市民が積極的に回答し、普段から関心のない人には回答意欲が盛り上がらなかった結果と見ることもできる。従って、各設問の回答分布の結果は、市民総体の傾向を代弁しているというよりも、関心の高い人の意向がやや強く反映されたものである可能性がある。この点に注意して各設問の集計結果を見る必要がある。

②結果概要

- ・ 回答者の属性分布は、女性が男性よりもやや多いこと、比較的高齢の層の回答が多く 60 歳以上で全体の 44.0%を占めること、市内居住歴が 20 年以上という長期居住者が全体の約7割を占めること、有職者は約半数であること等の特徴がある。
- ・ 回答者の居住地区分布は、概ね旧3町の人口分布を反映した値で、大きな偏りはない。
- ・ 回答者における、伊豆の国市の歴史への関心、文化財・遺跡の由来や保護・活用への関心の度合はかなり高く、「非常に興味・関心がある」と「やや興味・関心がある」を合わせた割合は、前者で67.3%、後者で64.6%を占める。このことからも、関心度の高い人が積極的に回答した可能性が伺える。
- ・ 上記を反映して、市内の文化財・遺跡の保護・活用の重要性はかなり強く認識されており、「非常に重要」と「やや重要」の合計割合は79.3%に達し、「重要と思わない」の割合は非常に低い。
- ・ 文化財・遺跡の保護・活用の重要性に関して、「非常に重要」を2点、「やや重要」を1点、「どちらともいえない」を0点、「あまり重要と思わない」を-1点、「全く需要と思わない」を-2点として回答数で加重平均した評価点は1.14であるが、居住地区別にみると韮山地区が最も高く、伊豆長岡地区がやや低い値となっている。文化財・遺跡の集積の身近さが意識の相違に現れているものと見られる。

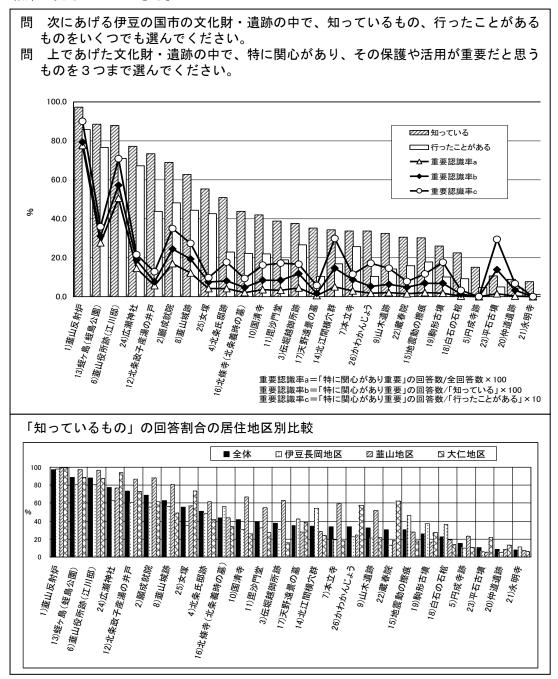


問 あなたは、市内の文化財・遺跡の保護や活用の 重要性をどの程度感じていますか。(1つ選択) ≪「非常に重要」を2点、「やや重要」を1点、 「どちらともいえない」を0点、「あまり重要と 思わない」を-1点、「全く重要と思わない」を -2点として回答数で加重平均した評価点≫ (居住地区別)



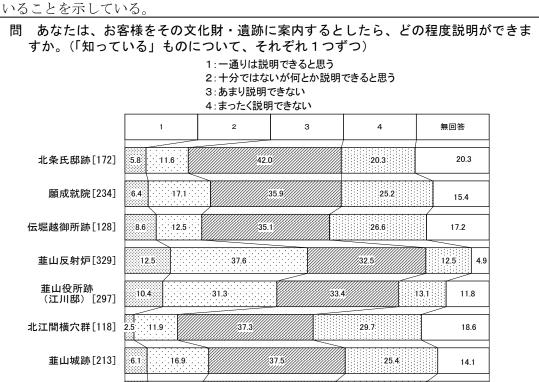
- ・ 市内 26 の主要文化財・遺跡に対する周知度(「知っている」の割合)は、韮山反射 炉、蛭ヶ島、韮山役所跡(江川邸)の順に、26 のうち 20 までが3割以上の値となり、 認知はかなり進んでいると見られるが、アクセス率(「行ったことがある」の割合)は、周知度が中位以下のものでは高低の差が激しくなり、「知っていても行ったことがない」ものが多い(例:北条氏邸跡は周知度50.9%だが、そのアクセス率は46.0% など)。
- ・ 特に関心があり保護・活用が重要と指摘される割合は、韮山反射炉と韮山役所跡 (江川邸)が突出し、他の文化財・遺跡との間に大きな格差があり、市民の関心にり があるといえる。
- ・ 各文化財・遺跡を「知っている」の割合を居住地区別に比べると、それぞれの所在 地区が相対的に高い割合を示しているが、「韮山反射炉」は各地区とも高い割合で近 接しており、群を抜いた周知度を示している。「知っている」割合が低い文化財・遺 跡では、所在地区とそれ以外で「知っている」の割合の格差が大きいものが多い。

・ 主要な8つの文化財・遺跡について、「知っている」ものを知ったきっかけは、「地元なので自然に」がいずれも多いが、韮山反射炉と韮山役所跡(江川邸)は「学校で習った」の割合が比較的高いのが目立つ。前述の重要性の指摘の高さも、教育の成果・結果と見ることができる。



- ・ 同じく「知っている」ものについてお客様に「説明できると思う」割合も、韮山反射炉と韮山役所跡(江川邸)が他を大きく引き離しており、この2つについては市民への周知教育が特に行き届いているが、他の文化財・遺跡の周知が相対的に不十分なことも表している。
- ・ 同じ8つの文化財・遺跡で「知っている」ものについてのイメージは、いずれも「歴 史学習の場」、「歴史を伝える文化的な空間」の割合が多いが、韮山反射炉と韮山役所

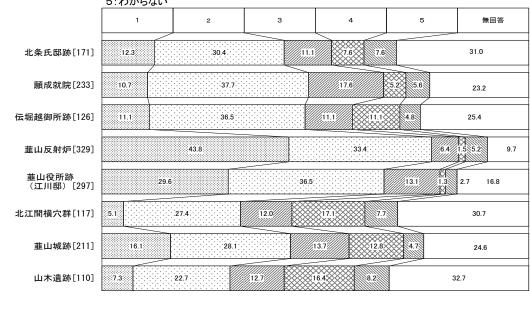
跡(江川邸)では「市のシンボル的な存在」、韮山城跡では「人々の憩いの広場・公園空間」の割合が比較的高いのが注目され、これらがやや特殊なものとして見られていることを示している。



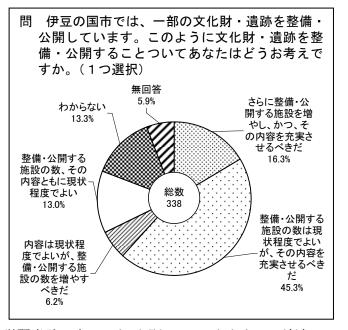
- 問 その文化財・遺跡の今後の保護・保存や活用についてどのようにお考えですか。(「知っている」ものについて、それぞれ1つずつ)
 - 1:まちづくりの資源として積極的に公開、活用のための整備を行うのがよい
 - 2:保護・保存と両立させながら公開やまちづくりへの活用をしていくのがよい
 - 3:保護・保存に支障のない範囲で限定的に公開していくのがよい
 - 4:あるままの姿で保護・保存することを重視し、公開や活用は考えなくてよい
 - 5:わからない

15.2

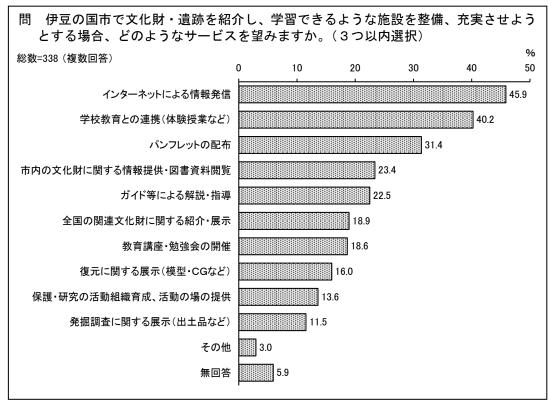
山木遺跡[112]



- ・ 現状の保護・保存状況に対しては、韮山反射炉と韮山役所跡(江川邸)及び願成就院で特に高評価であり、また、今後の保護・保存や活用に対しては、韮山反射炉と韮山役所跡(江川邸)で特に、まちづくり資源としての活用整備への積極的姿勢の回答割合が突出している。
- ・ 今後必要な整備内容では、「案 内表示」がいずれも多いが、韮山 反射炉では「資料館」、願成就院 や伝堀越御所跡、北江間横穴群 では駐車場・駐輪場の割合が比 較的高く、アクセスの妨げにな っていることを伺わせる。
- 市内の文化財・遺跡の整備・公開については、数よりも内容の充実が多く求められているようである。
- ・ 文化財・遺跡の紹介・学習の施設の整備充実においては、情報発信や提供、学校教育との連携が強く求められ、また、参加しても良い活動として「学習機会へ



の参加」が突出しており、市民の学習意欲は高いことが現れているとともに、前述の 関心の偏りの是正等のためには、より幅広い学習機会提供や情報提供が必要である ことを示唆しているとも言える。



伊豆の国市内の文化財に関するアンケート調査概要結果

①文化財関係者の意向の把握方法

市内の文化財に関係者の実感や問題意識、将来の方向に対する意向等を吸収するため、アンケート調査を実施した。

調査の実施概要は以下のとおりである。

- ・調査の実施:令和3年8月(9月3日提出締切)
- ・調査対象者:市内の主な文化財関係者(所有者・観光商工関係者)
- 調査方法:郵送による配布、郵送(料金受取人払)による回収

設問項目の構成は以下のとおりとした。

- ○回答者の属性
 - ・性別 ・職業 ・居住地区 ・居住歴
- ○伊豆の国市の文化財について
 - ・伊豆の国市の歴史や自分達の祖先の暮らしの興味
 - ・文化財の由来やその保護・活用などについて全般的な関心
 - ・市内の文化財の保護や活用の重要性
 - ・伊豆の国市の文化財の中で、知っているもの、行ったことがあるもの
 - ・文化財の中で、特に関心があり、その保護や活用が重要だと思うもの
 - ・その他市内文化財で、特に関心があり保護や活用が必要だと思う文化財
- ○伊豆の国市のおもな文化財について
 - 文化財を知ったきっかけ
 - ・お客様に文化財を案内するとしたら、どの程度説明ができるか
 - ・文化財のイメージ
 - ・文化財の今後の保護・保存や活用についての考え
 - ・文化財を公開・活用していく場合に、最も必要だと思う設備
- ○伊豆の国市の文化財全般における今後の整備等について
 - ・市が整備・公開している一部文化財についての考え
 - ・市が文化財を紹介し、学習できる施設を整備・充実する場合に望むサービス
 - ・文化財に関する活動のなかで、今後、参加してもいいと思うもの
- ○文化財の将来のあり方に対する自由な意見
- ○伊豆の国市郷土資料館について
 - ・市郷土資料館の所在地を把握しているか
 - ・市郷土資料館を利用(見学)したことはあるか
 - ・市郷土資料館を今後利用(見学)しようと思うか
- ※ アンケート内容は、平成 24 年度に実施した「歴史文化基本構想に関するアンケート」を参考に作成した。

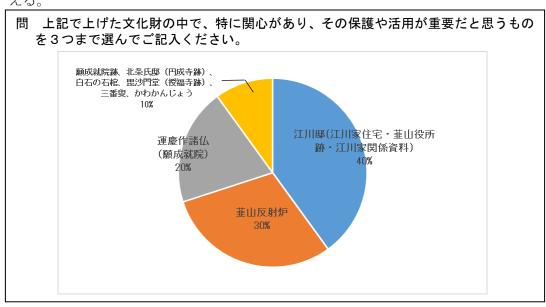
②結果概要

- ・ 文化財関係者を対象としたため、伊豆の国市の歴史への関心、文化財の由来や保護・活用への関心の度合はかなり高く、「非常に興味・関心がある」が回答を占める。
- ・ 上記を反映して、市内の文化財・遺跡の保護・活用の重要性はかなり強く認識されており、回答者全員が「非常に重要」と回答している。
- ・ 市内の文化財に対する周知度(「知っている」の割合)は、韮山反射炉、江川家住宅、願成就院諸仏をはじめとした旧韮山町区域内の文化財については高いが、旧大仁町・旧伊豆長岡町の文化財については周知度が低い傾向が見受けられる。また、建造物や美術工芸品についての認知度は高いが、平石古墳をはじめとする遺跡についての周知度が低い結果となった。

問 市内の文化財の中で、知っているもの全てに丸を付けてくだ

文化財名	周知度
山反射炉 ・江川家住宅・韮山役所跡・江川家関係資料(江川邸) ・韮山城跡 慶作諸仏(願成就院) ・伝堀越御所跡 ・願成就院跡 ・北条氏邸跡(円成寺跡) 造阿弥陀如来坐像・木造観音菩薩坐像・牡丹鳥獣文繍帳(北條寺) 造金剛力士像(国清寺) ・広瀬神社 ・蛭ヶ島(蛭ヶ島公園) 条政子産湯の井戸・女塚 ・毘沙門堂(授福寺跡)	100. 0%
・山木遺跡 (出土の生産・生活用具) ・北江間横穴群 ・梵鐘 (本立寺) ・三番叟 (大仁区・寺家区・田京区・原木区・三福区) ・かわかんじょう	83.3%
・地震動の擦痕・旧上野家住宅	66.6%
・蔵春院	50.0%
・駒形古墳・天野遠景の墓	33. 3%
·白石の石棺 ·平石古墳 ·仲道遺跡 ·永明寺	16.6%

・ 特に関心があり保護・活用が重要と指摘される文化財には、主に韮山反射炉、江川家住宅・韮山役所跡・江川家関係資料(江川邸)、願成就院諸仏(願成就院)が上げられ、この3つが市内文化財及び観光商工関係者に重要視されていることがうかがえる。



- ・ 上記で上げた以外に特に関心があり、その保護や活用が必要だと思う文化財として、珍場神社や真珠院、守山八幡宮宮殿といった建造物や、個人宅の文書類があげられた。建造物については交通の便の悪さや道の分かりづらさため活用が難しいこと、文書類については指定や調査が進んでおらず保護が難しいことが理由としてあげられた。
- ・ 韮山反射炉、願成就院、江川邸は「市のシンボルである」という意見が過半数を占める。また、同文化財については、お客様に「一通り説明ができる」と回答した割合が多い。これらの文化財は回答者にとって重要視されているため、同様に考える市民から今後の保存・活用について強く求められる可能性が高い。また、今後の市内観光への際に活用の中心となる文化財になることが見込まれる。
- ・ 文化財を知ったきっかけは、回答者に市内出身者が多いこともあり「地元なので自然に知った」、「家族や友人に聞いた」という回答最もが多いが、同様に学校等その他の学習の場や情報媒体で知ったという回答も多い。学校教育をはじめとする教育活動や情報発信が、文化財を周知するためには重要であると考えられる。

